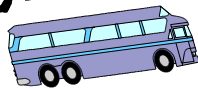


射添地区コミュニティだより 第2号

先進地視察



- ◇実施日 8月7日(水) 午前8時出発
◇視察先 与布土地域自治協議会
(住所：朝来市山東町溝黒366-1)
○奥敏夫会長 ○細見守副会長 ○奥事務局長



射添地区新しい地域コミュニティ設立準備委員15名で、地域コミュニティづくりの先進地として定評のある与布土地域自治協議会(構成している10集落は2キロ以内であり、こぢんまりと固まっている)に視察研修に伺いました。

与布土地域
自治協議会とは



与布土地域は、世帯数489世帯、人口1,236人の農村地域で10集落で構成、この地域も少子高齢化により耕作放棄地が目立ち始め、子どもの活動など集落単位での維持が困難になることや高齢化世帯の増加により集落機能が低下する集落が増えるなどの懸念があった。

そんな状況に対応するため、自分たちの手で自分たちのまちを「いつまでも安全安心に住み続けることができるまち」「元気で魅力あるまち」を目指し、平成19年6月17日に、様々な地域課題を自らで解決するため『与布土地域自治協議会』を設立した。

(詳しくは、ホームページ：与布土地域自治協議会検索)

《組織》 協議会の総括や運営を行う「運営委員会」と様々な活動を展開するため、6つの「事業部会」と「広報委員会」を設置しています。

- ◇かえるの郷部会・・・ 与布土の自然を学び、つなぐ活動
- ◇こくらの郷部会・・・ 「よふど温泉」の周辺整備を行うなど、与布土地域の観光資源として「よふど温泉」を地域で盛り上げる活動
- ◇みのりの郷部会・・・ 集落農業者集落営農などへの取り組みについて研究し、耕作放棄地の減少や有効活用により農地環境を守り、また、地域の農作物を使った特産品の開発や販売
- ◇はぐくみの郷部会・・・ 地域 みんなで地域の子どもたちを見守り、育てていくことで子育てを地域で支援する活動と伝統文化・郷土歴史などの継承
- ◇すみやすい郷部会・・・ 子どもや高齢者が安全な環境で安心して生活できるよう地域ができる取り組みについて研究・実践活動
- ◇つながりの郷部会・・・ 地域住民相互の交流イベント、講座や勉強会の開催

平成18年12月より、設立に向け与布土地地区区長会で検討を始め、翌年1月より住民座談会(各区より各種年代層5名程度)を2回開催し、第3回座談会は、自然、農業、少子高齢化、人づくりなど6部門について5回程度開催したそうです。組織ありきでは、組織を作っただけで終わってしまう、座談会を開催したことで住民の思いを把握することができたそうです。地域自治協議会を設立した頃はまだどの区もしっかりとした集落であったが、13年を経過する中で各集落も弱ってきているようです。今では、自治協議会に頼っている現状であり、組織として今必要とされているとのことでした。今後、射添地区の地域コミュニティづくりの方向性や住民、集落に頼られる組織体制について検討しなければならないと思います。住民皆様の思い、声をお寄せ下さい。



《参加者の意見》

参考になったことは、「区長等の役職だけで役員・部会を組織すると運営が長続きしない」「地域住民の考え・想いをしっかりと聞き、意見を反映した組織を創る」といったことを強調していたように感じた。射添地区においても、十分検討し『まずできることから進める』ことが大事ではないかと感じた。

射添地域の現状と課題について ワークショップを開催



射添地区の人口は、1,380人（平成31年3月末現在）で、0～19歳以下 150名（約10.9%）、20歳～64歳 590名（42.7%）、65歳以上 640名（46.4%＝高齢化率）となっています。

人口減少は将来においても進んでいくことが予想され、11年後（令和12年）は、1,141人（H27.10月香美町人口ビジョン参照）と推計されていますが、もっと少なくなると1,000人を切る可能性があります。《各班活発な意見交換》

人口の過疎化が著しい「射添地区」は、若者が都市部へと流出し、少子高齢化が進行し、今後このまま推移すると集落の運営や維持も厳しい状況となります。地域の課題を協議する中で、射添地域にあった地域コミュニティづくりを目指す必要があります。地域住民が安心して住み続けることが出来る仕組み作りが求められます。

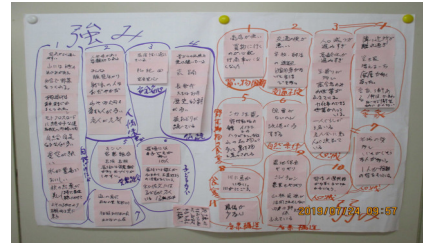


設立準備委員会では、7月23日射添地区の強み、弱みについて第1回ワークショップを行いました。委員4班に分かれてそれぞれの思いや考えを付箋に書き出し、話し合いを行いました。各班から沢山の意見が出され、各班ごとの意見交換、その後発表しました。



☆ 4 班の意見をまとめると・・・

- ① 自然に関すること
- ② 地理的な要因（農地環境）
- ③ 地域の安心・安全に関すること
- ④ 地域住民交流及び集落運営
- ⑤ 地域（産業）の活性化と伝承芸能文化



5つの項目に整理することができます。熱心に意見交換を行い、射添地区の良いところ、弱い（不安）ところを抽出することができました。次回には、射添地区の強みを生かし、脅威を機会に変えるためには、弱みをチャンスに、また、



最小限に抑えるためには、強みを生かした持続可能な地域コミュニティづくりや仕組み作りについての検討を予定しています。

射添地区まちづくりアンケート調査 ご協力ありがとうございました



各区長様、住民の皆様の協力により68.3%の高い回収率でした。今回調査結果報告書（要約版）を各世帯に配付させていただきます。ご確認いただき、参考にして下さい。住民の皆様のご意見や想いを地域コミュニティづくりに役立てるため検討して参ります。

発行：射添地区新しい地域コミュニティ
設立準備委員会（射添地区公民館内）
〒667-1368 美方郡香美町村岡区入江711-2
TEL 0796-80-1550 FAX 0796-80-1626
E-mail: iso-community@iris.eonet.ne.jp

8月末日に『射添地区まちづくりアンケート調査の簡易分析』を委員に配付し、9月17日第6回委員会で企画課山下主査の概要報告の後、3班に分かれてワークショップを開催。

テーマ ①『地域活動への関心』
アンケートの結果は、射添地区の方々は協力的で、地域の付き合いを大切にしています。委員の意見として若者や女性が好む事業の企画や参加しやすい事業内容などやり方、方法等の見直しが必要との意見が多くありました。女性の参画など今後の課題が見えてきました。

テーマ ②『日常生活での不安や困りごと』

地域住民それぞれに不安や困りごとがあり、各班の意見交換を整理すると不安困りごとのキーワードは、移動手段・農地・健康・除雪これらの仕組み作りが必要と思われます。

※今後詳しい報告書にて再度検討致します。

まちづくりアンケートから考える